

はすだね通信 第31号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成18年10月23日発行

平成18年度の試験等実施状況

1. 環境にやさしいレンコン生産技術に関する取り組み

近年、霞ヶ浦の富栄養化が問題となっており、その原因の一つとして農地からの肥料分流入があげられています。このため、本年度は以下のような試験に取り組み、環境にやさしいレンコン生産技術の実証、普及を行っています。

① エコ農業推進の取り組み

JA土浦田村蓮根部会では34名、10.6haでまとまりのある大規模なモデル地域を設け、化学肥料や化学農薬を減らした栽培を行うことで、農業面から霞ヶ浦の水質浄化を進めるとともに特色あるレンコン産地づくりをしています。普及センターでは農業研究所と協力してモデル地域流域の水質調査を行い、環境負荷削減効果を検証し拡大していく予定です。

取り組み内容

- ①減化学肥料 → 慣行の化学肥料窒素50%減
- ②減化学農薬 → 慣行の回数の50%減
- ③総窒素量の削減 → 総窒素の1/3を削減

② 土壌診断に基づく施肥技術の確立・実証

レンコンの圃場は、場所によって地力に差が見られますが、施肥は同様に行われています。このため、地力の違う3圃場（霞ヶ浦2ヶ所、土浦1ヶ所）において土壌の地力（肥沃度）に応じた施肥方法を検討しています。

今後3年間同じ圃場で試験を継続して行い、技術を確立する予定です。この技術により、土壌診断結果を基に地力に応じて必要な施肥量を求めることができ、過剰な施肥量を減らすことが可能となります。

普及センターでは、これまで環境にやさしい技術として実証した肥効調整型肥料や隔年施肥等の技術と併せて普及推進を図り、霞ヶ浦に対する環境負荷の軽減を図っていきたいと考えています。

2. 農薬の登録拡大試験に関する取り組み

レンコンのアブラムシに対する登録農薬を拡大するために、メーカーやJA、部会と協力して現地における作物残留試験を実施しています。登録がとれるまでにはまだ時間がかかりますが、今後登録がとれ次第情報提供していきます。登録農薬拡大には、産地が一体となった取り組みが不可欠です。今後ともご協力をお願いします。



今後の管理について(褐斑病の防除:次年度に向けた対策)

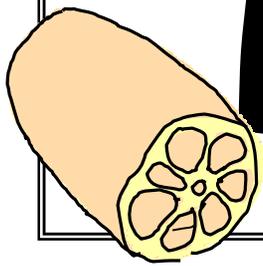
今年は栽培後期の褐斑病の発生が例年より多くなっています。今後立ち葉は自然に枯れる時期となりますが、褐斑病の病原菌は罹病茎葉で越冬するため、次年度の発病が心配されます。このため、以下のような点に注意し対策を実施して下さい。

1. 刈り取ったカワは、持ち出して畦畔に残った罹病茎葉とともに焼却処分するか、もしくは代かきを十分行うことで圃場内に埋め込むようにしましょう。
2. 圃場周辺のカワ（茎葉）も同様に処理し、病原菌が圃場周辺に残らないようにしましょう。



環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!

土浦地域農業改良普及センターでは、はすだね通信についてのご感想やレンコンについての情報をお待ちしています。
土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-7253 Fax 029-822-7370



はすだね通信 第32号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成19年2月 日発行

レンコンの病害虫防除について

レンコンの病害虫防除は、圃場準備期から総合的な対策を立てることが重要です。以下に対策例を挙げましたので参考としてください。

防除対策

○圃場準備期(2月下旬～4月上旬)

・ウキクサ類・アブラムシ

あぜなみ等で畦畔を補修し他圃場からの水の流入を防ぐ。また、雑草は害虫の温床となるため、圃場及び圃場周辺の除草を行う。

・スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)

発生が見られる圃場では、2～3月に石灰窒素60kg/10a施用し耕起する(窒素12kgに相当、元肥から減肥)。

○植え付け時

・アブラムシ、イネネクイハムシ

植え付け時にアトマイヤー1粒剤を施用する。また、圃場周辺、圃場内にシルバーテープを設置する。

○植え付け後

・アブラムシ

圃場周辺及び圃場内の除草(ウキクサ等)を行う。

予防～発生初期(5～6月):オルトラン粒剤、アクタラ粒剤5、ダントツ粒剤の散布

多発生時:ダントツ水溶剤の散布

・ウキクサ類

モゲトン粒剤の散布(多発生時)

発生初期は極力すくい取る。また、作業後に作業着、作業機械の洗浄を行い、他圃場への移動を防ぐ。

・イネネクイハムシ

トレボン粒剤の散布(6月下旬～7月中旬)

圃場周辺及び圃場内の除草(ウキクサ等)を行う。

・褐斑病

トップジンM粉剤の散布(6～7月、9月)

発病田の罹病茎葉の持ち出し・焼却、ハウス及びハウス周辺圃場、床立ち圃場の防除を徹底する(ハウス除湿、薬剤散布)。

※ 粒剤については、散布後4～5日間落水、かけ流しは避ける。

主な登録薬剤

作物名	対象病害虫	防除薬剤名	希釈倍率又は 使用量	使用時期	本剤の使 用回数	有効成分	有効成分毎の 総使用回数
レンコン	クワイヒレアブラムシ	アトマイヤー1粒剤	3kg/10a	植付時	1回	イミダクロプリド	1回
		ダントツ粒剤※1	6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	3回以内
		ダントツ水溶剤※1	2000～4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	3回以内
		アクタラ粒剤5※1	6kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	チアメトキサム	3回以内
	アブラムシ類	オルトラン粒剤	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	アセフェート	3回以内
	イネネクイハムシ	トレボン粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	3回以内
	ハスモンヨトウ	フローバックDF	1000倍	収穫前日まで	4回以内	BT	4回以内
	褐斑病	トップジンM粉剤	3～4kg/10a	収穫前日まで	5回以内	チオファネートメチル	5回以内
	ウキクサ類	モゲトン粒剤	2～3kg/10a	収穫60日前まで	1回	ACN	1回
スクミリンゴガイ	ケニ印石灰窒素55	60～100kg/10a	植付前	1回	石灰窒素	—	

注: ダントツ粒剤、ダントツ水溶剤は有効成分が同じであるため、2剤合計で3回までしか使用できません。

表中の※1(白抜き)の薬剤(ダントツ粒剤、ダントツ水溶剤、アクタラ粒剤5)は、新規登録薬剤です。

農薬の使用について

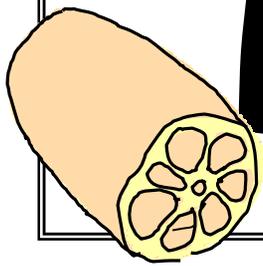
資料の作成にあたっては農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は必ず使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

また、食品衛生法が一部改正されポジティブリスト制が施行されました(18年5月29日)。農薬は、周辺圃場へのドリフト(飛散)等に注意し適正に使用して下さい。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!

土浦地域農業改良普及センターでは、はすだね通信についてのご感想やレンコンについての情報をお待ちしています。

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8511 Fax 029-822-7370



はすだね通信 第33号

みんなで進めよう
茨城農業改革

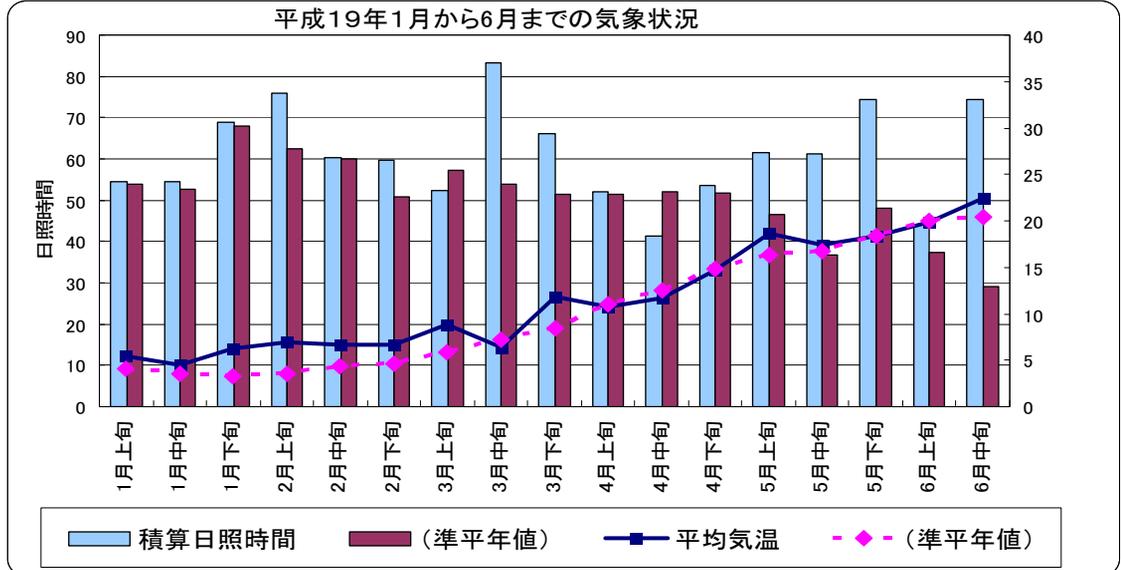
土浦地域農業改良普及センター

平成19年7月5日発行

平成19年産の作柄状況

平成19年1月～6月の土浦市の気象状況は、3月まで気温が高く暖冬傾向でしたが、4月以降はほぼ平年並みとなっています。日照時間はほぼ平年を上回っており特に5月以降は平年値を大きく上回っています。

このため、ハウス栽培については6月上旬から出荷が始まっていますが、不作だった昨年を大きく上回る出荷量となっており、今後出荷が始まるトンネル、露地についても、生育は良好で順調な出荷が期待されます。



今後の管理について(イネネクイハムシ・褐斑病の防除)

○イネネクイハムシは、6月下旬頃から成虫になって産卵し、新しく生まれた幼虫がレンコンに被害を与えます。防除適期は7月上旬頃となりますので下記登録農業で防除を行ってください。また、雑草にも産卵するので、ほ場周辺の除草を徹底して下さい。
○褐斑病は早い場合、6月下旬から発生し始めます。昨年は8月お盆明けから谷津田、床立ちほ場で発生、強風により胞子が飛散し広範囲に蔓延しました。昨年発生したほ場やハウス周辺ほ場では、今後病害の早期発見と早期防除を徹底して下さい。

作物名	対象病害虫	防除薬剤名	希釈倍率又は使用量	使用時期	本剤の使用回数	有効成分	有効成分毎の総使用回数
レンコン	イネネクイハムシ	トレホン粒剤	3kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンプロックス	3回以内
	褐斑病	トップジンM粉剤	3~4kg/10a	収穫前日まで	5回以内	チオファネートメチル	5回以内

・粒剤は湛水状態で散布し、散布後少なくとも3~4日間(できれば7~10日間)は、そのまま湛水状態にして、落水やかけ流しは行わず、周辺に水が流失ないように水管理を徹底する。
・資料の作成にあたっては農業使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農業を使用する際は必ずラベルを見て、対象作物や希釈倍率、農業成分の使用回数等を確認し農業の誤った使用を行わないようにして下さい。

※H19.7.3現在

ウキクサ発生状況を調査中!

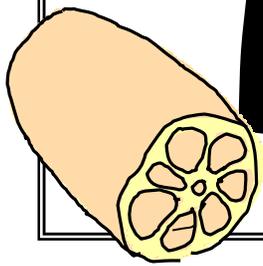
レンコン田におけるウキクサは、水温の低下、アブラムシの寄生を増やす等生育に大きな影響を与えていると考えられます。従来のアオウキクサに加えここ数年、アカウキクサの発生が目立ってきており昨年度は多くのほ場で発生が見られました。本年度については現在のところアオウキクサの方の発生が多い状況です。普及センターでは昨年からウキクサの耕種防除法の検討、発生状況等の調査を行っています。また、現状把握の段階で防除法の確立には至っていませんが、今後も継続して調査を行っていく予定ですので皆様からも情報提供等のご協力についてよろしくお願いします。

エコファーマー省令技術が追加になりました

エコファーマーとは、「持続性の高い農業生産方式」の導入計画を作り、県知事の認定を受けた農家のことです。「持続性の高い農業生産方式」は①土づくり②化学肥料低減③化学農薬低減の3つの技術に一体的に取り組む生産方式です。
これまでレンコンでは③化学農薬低減技術について実質取り組める技術が無く、エコファーマーの認定が受けにくい状況でしたが、本年度は新たに「機械除草」(刈払い機等による畦畔除草)が認められたためレンコンでも取得しやすい状況となっています。エコファーマーについては環境にやさしい農業を実践していることをアピールしていく手段として有効ですので、これを機にエコファーマーの認証取得について是非考えてみて下さい。詳しくは土浦農業改良普及センターにお問い合わせください。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!

土浦地域農業改良普及センターでは、はすだね通信についてのご感想やレンコンについての情報をお待ちしています。
土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-7253 Fax 029-822-7370



はすだね通信 第34号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成20年5月12日発行

レンコンのアブラムシ防除について

レンコンを加害するアブラムシはクワイクビレアブラムシ(別名ハスクビレアブラムシ)です。アブラムシ類の発生生態は図1のとおりです。クワイクビレアブラムシはウメ、モモ、スモモなどの樹上で卵態越冬し、4月下旬～5月頃に有翅虫(羽のある形態のアブラムシ)がレンコン田内に進入し、立葉が出始めるとともに寄生・増加が目立ってきます。これから秋にかけては交尾せず直接幼虫を産むため増殖力が非常に高く、防除が遅れて多発すると防除回数も多くなってしまいます。

昨年、普及センターにおいて粒剤の防除効果試験を実施しました。その結果、処理時期が防除効果・持続期間に影響することが分かりました。図2にその結果の一部を示しましたので、参考にして適期処理に努めてください。

図1 アブラムシの発生生態

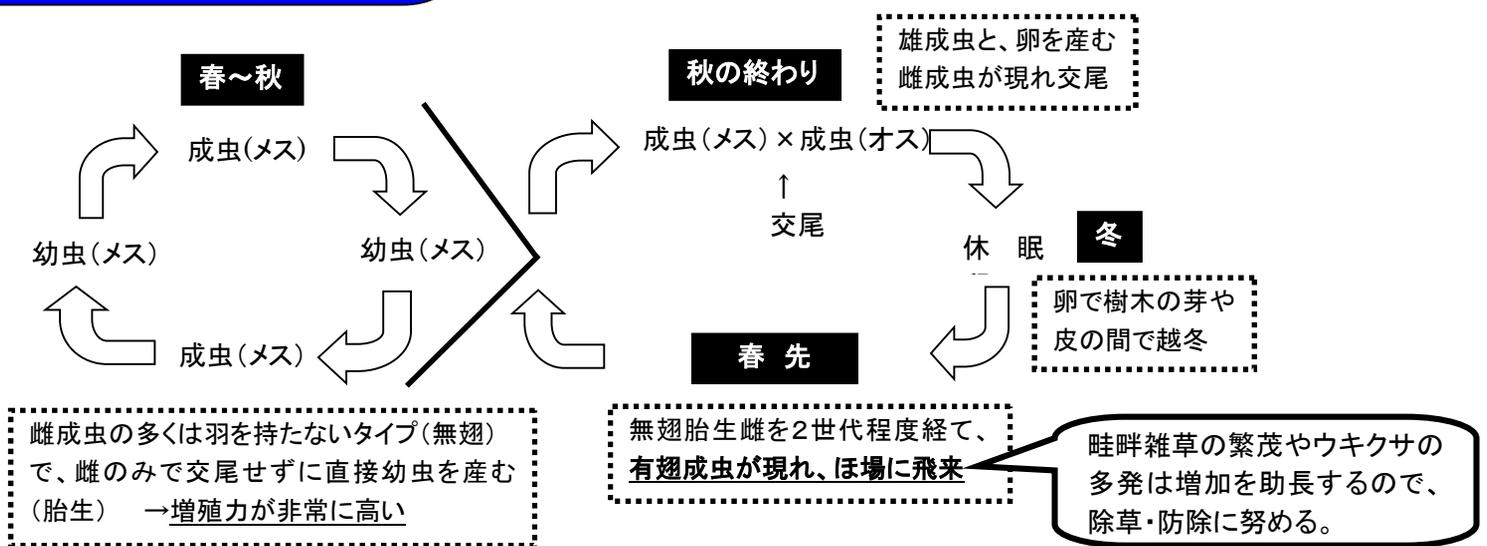
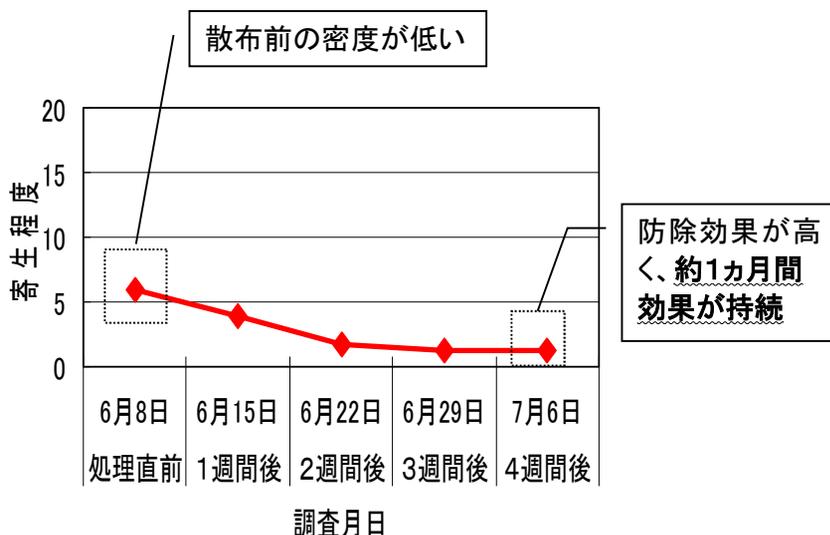


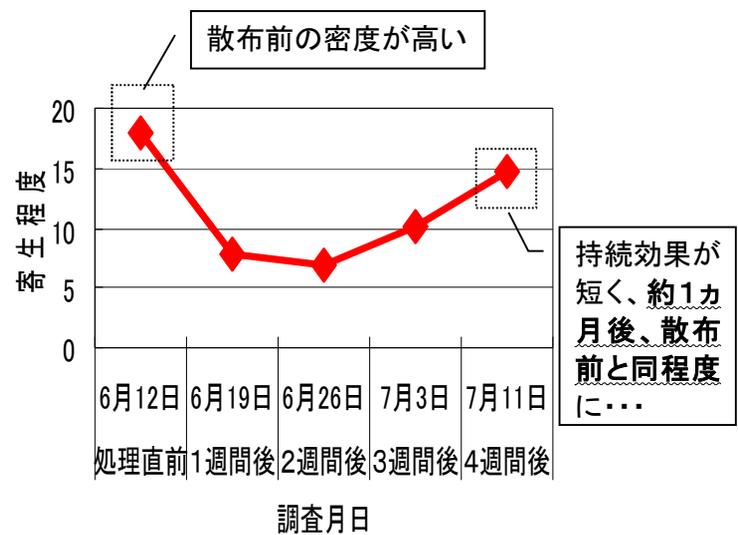
図2 処理時の密度による防除効果の違い

処理量:ダントツ粒剤6Kg/10a 湛水散布

①密度が低いうちに散布した場合



②密度が高くなってから散布した場合

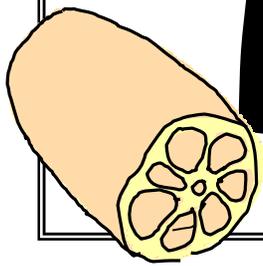


※粒剤はレンコンに吸収されて効果があらわれるまで時間を要します。
 発生初期に処理すれば効果が高く、持続期間も長いことがこの試験で確認されました。
 粒剤は防除適期(発生初期)を逃さないように処理することがポイントです。
 ※農薬を使用する際は必ずラベルを見て、対象作物や使用量、農薬成分の使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにして下さい。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8517 Fax 029-822-7370

<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/tsuchiura/>



はすだね通信 第35号

みんなで進めよう
茨城農業改革

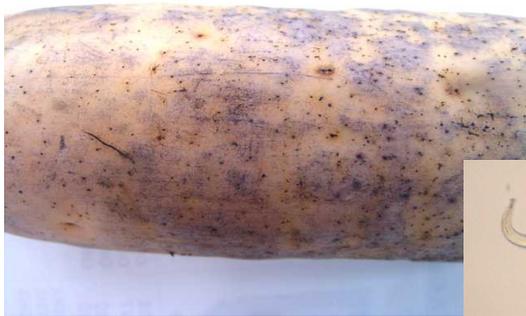
土浦地域農業改良普及センター

平成20年7月16日発行

レンコン黒皮症の原因センチュウと対策について

レンコンの表皮に黒い小斑点、斑点部のくぼみ、表面の凹凸となる黒皮症の原因は、これまでイマムラネモグリセンチュウによるものとされてきましたが、今年6月に石岡市で同様の症状を示したレンコンを研究機関に依頼して診断したところ、別種の「レンコンネモグリセンチュウ」であると特定されました。なお、性質や伝染方法等は両種ともほとんど同じと考えられており、登録農薬がないことから、**予防・耕種的対策により被害の拡大を防ぐこと**が今後非常に重要です。

レンコン黒皮症の症状と原因センチュウの特性



- ・レンコンの表皮に黒い小斑点が発生。
- ・ひどくなるとかすり状の褐変ができ、肌の表面が凹凸となる。
- ・全体に黄ばみがかかり、肌の白さがなくなる。
- ・根量が少なくなり、細根が消失して棒状の根となる。
- ・乾燥には弱く、暗渠が完備した水田では密度が減少する。



- ・レンコンに寄生し、高温期に増殖する。越冬が可能であり、土中にも生存可能である。
- ・水がある環境では、流れに沿って移動できる。

レンコンにおける伝染の特徴

- ①水、泥の移動による伝染
 - ・症状の発生したハス田から、隣接する下手側の田へ拡大する。
- ②種バスでの持ち込み
 - ・症状の発生したレンコンを種バスとして用いた場合、1年目から症状が発生する。
- ③土壌伝染
 - ・症状の発生したハス田では、土壌中にセンチュウが残るため、1年目から症状が発生する。

発生しやすい条件

- ①土質による差がある
 - ・千葉県事例では粘土質より砂質のほ場で発生が多いとされている。
- ②高温期に発症する
 - ・7～8月のレンコンの肥大が始まる頃から症状が見られ、8月以降に被害程度が大きくなる。

症状の進行

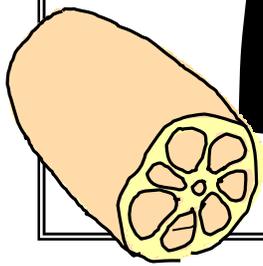
- ①レンコンの部位では、種バスに近い節から症状が出始め、徐々に先端部の節へ広がっていく。ひどくなると、先端部の節は変形する。
- ②レンコンが作土の底に接する側から発生し、ひどくなると上部側へ広がる。

予防対策

- ①健全な種バスの利用
 - ・種バスは、センチュウが発生していないほ場で育成し、センチュウが寄生していない種バスを利用する。
- ②センチュウ発生ほ場からの土や水の移動を防ぐ
 - ・しっかりした畦畔をつくり、隣接するほ場からの土や水の移動を防ぐ。
 - ・上流で発生がある場合は、早生品種を作付け、夏場のセンチュウの被害がひどくなる前に収穫する。

発生ほ場での対策

- ①登録農薬がないので、薬剤による防除はできない。
- ②発生ほ場では、連作を避け休耕するか、水を切って乾田化しセンチュウの密度を減少させる。
- ③乾田化が難しい場合でも水を切ることにより、周辺ほ場への拡大を軽減することができる。
- ④乾田化できる場合は、太陽熱消毒を行う。梅雨明け後に、ビニルなどで全面マルチを行い、2ヶ月程度被覆することにより、センチュウ密度を下げる効果が期待できる。
- ⑤被害があつて廃棄するレンコンや根などの残渣は、ほ場の外に持ち出し、周辺のほ場に影響がでない場所で適正に処分する。
- ⑥代かき機械やカラ刈機などの機械や器具は、発生していないほ場から使用するか、発生ほ場で使用した場合は、よく泥を洗い落として移動する。



はすだね通信 第36号

みんなで進めよう
茨城農業改革

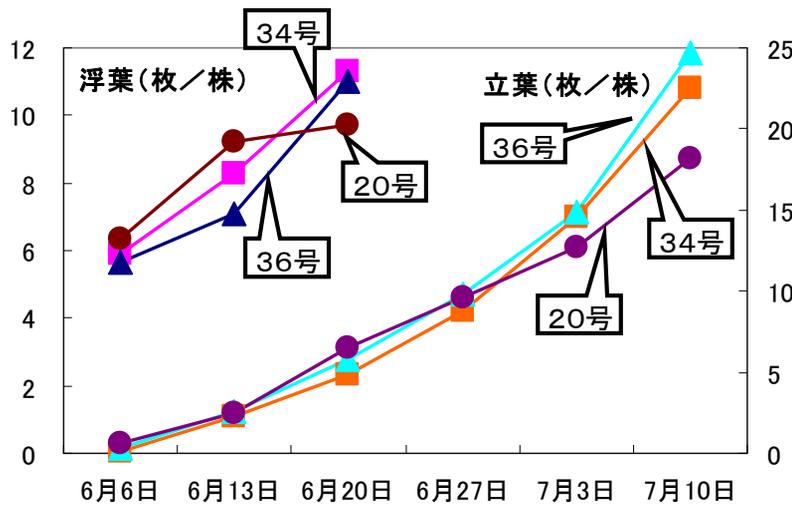
土浦地域農業改良普及センター

平成20年7月16日発行

金澄20号、34号、36号の生育品種比較

土浦地域の品種は収量・品質・作業性の良い「金澄20号」が主力となっていますが、年明け以降の掘り取りでは元部に近い節の劣化（スネ上がり）による歩留まりの低下が問題でした。そこで最近では金澄34、36号の導入が進みつつあります。しかしまだ栽培されて日が浅く、生育特性などのデータも少ないことから、普及センターでは今年、各品種の生育状況等を調査しましたので、その結果についてお知らせします。

図1 各品種の株あたり葉数の推移



↑各品種10～15株を調査し、株あたりを算出
かすみがうら市戸崎A氏ほ場、5月上旬定植

金澄20号を比較品種として比べると、

- ・株あたり立葉数は6月末までは3品種とも同様であったが、気温が高くなってきた7月に入ると34、36号は旺盛になった(図1)。
 - ・草丈は36号がやや高い(図2)。
 - ・最大葉は34、36号は20号よりは大きく、全体的に葉が大きい(図3)。
 - ・茎の太さは34、36号の方が太い(図4)。
 - ・葉の色に差はなかった(図5)。
- 以上のことから、34号、36号は20号より草丈・葉がやや大きく、茎も太い特徴があります。また、気温が高くなると生育が旺盛になり、葉数も増える傾向がみられました。

図2 最大葉の草丈

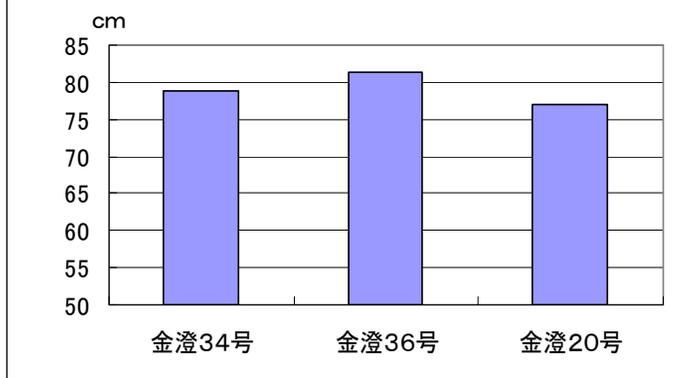


図3 最大葉の大きさ

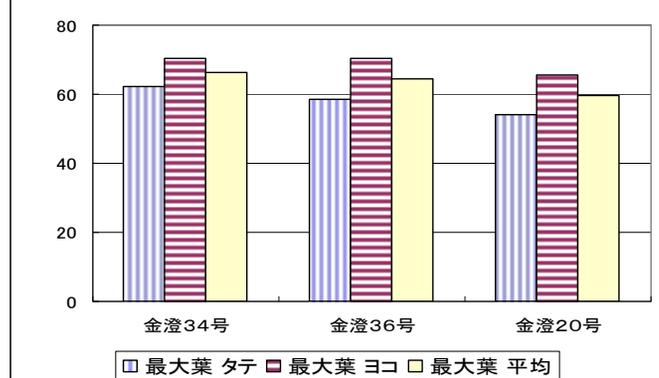


図4 最大葉の茎径(葉下5cmの太さ)

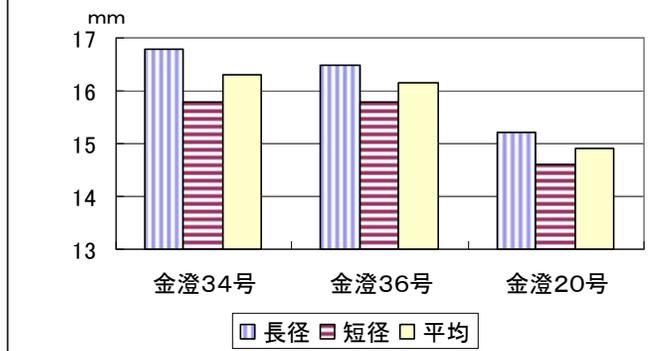
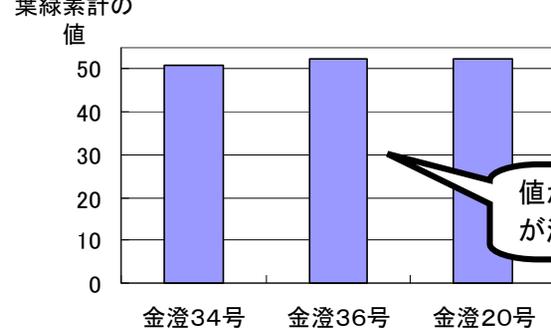


図5 完全展開葉の葉色

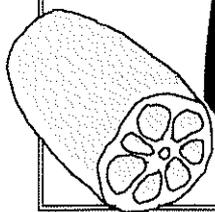


値が大きい程、緑色が濃いことを表す

↑株の最大葉を調査し、5株の平均値を算出。ただし葉色は完全展開葉20枚の平均値。

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8511 Fax 029-822-7370

<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/tsuchiura/>



はすだね通信 第38号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成22年2月23日発行

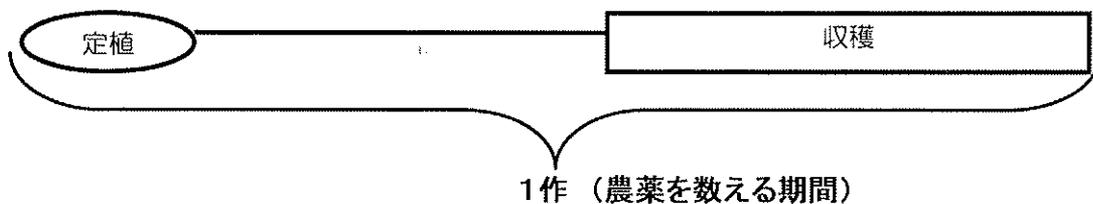
レンコン2年掘り栽培(床立ち)の農薬散布回数の数え方

レンコンの2年掘り栽培(床立ち栽培)の農薬使用回数について、茨城県農産課で以下のように決まりました。

使用回数の数え方を必ず守り、安心・安全なレンコン生産に努めましょう。

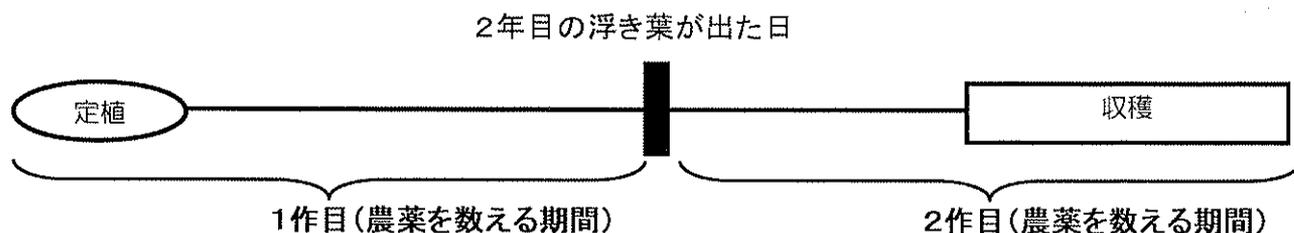
1 通常栽培(定植した種バスからできたレンコンを収穫する)

種バスを定植後、すべての収穫が終了するまでを1作とし、その期間中の農薬使用回数を数える。



2 2年掘り栽培(床立ち栽培、すじ掘り)

種バスを定植した日から、翌年に浮き葉が出るまでを1作目とする。2年目の浮き葉が出た時(田面に浮き葉の新芽が一つ見えた時)からすべての収穫を終了するまでを2作目とし、それぞれの期間の農薬使用回数を数える。



※1作目の親レンコン(1年目にできたレンコン)を収穫する場合は、1年目の定植から2年目の収穫終了までを1作の栽培期間と考え、その間の農薬使用回数を数えます。

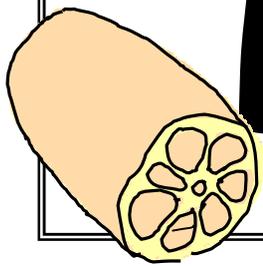
※2年掘り栽培を行う時も、必ず1年目からの農薬使用記録をつけて下さい。

※2年掘り栽培の「浮き葉が出た日」は「植え付け時」とは異なりますので、十分注意して下さい。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!

土浦地域農業改良普及センターでは、はすだね通信についてのご感想やレンコンについての情報をお待ちしています。

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8517 Fax 029-822-7370



はすだね通信 第39号

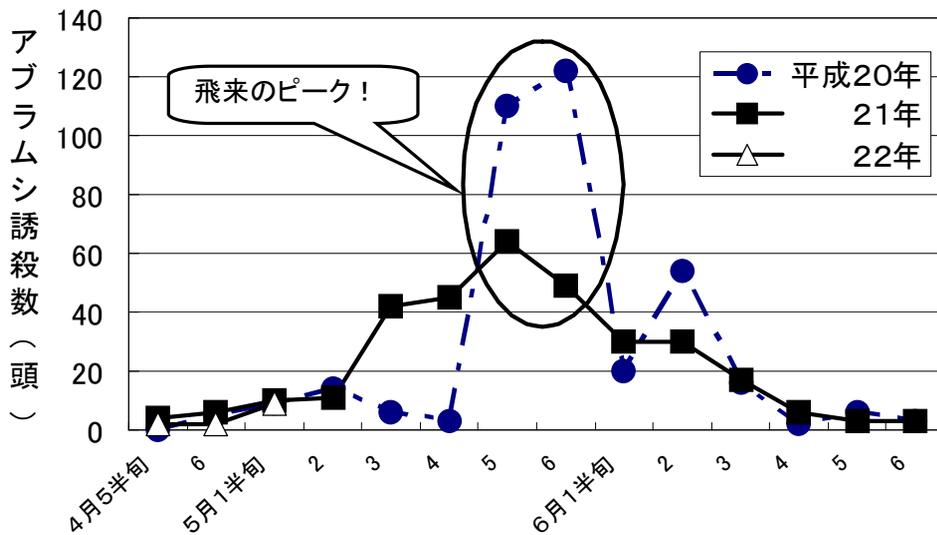
みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成22年5月7日発行

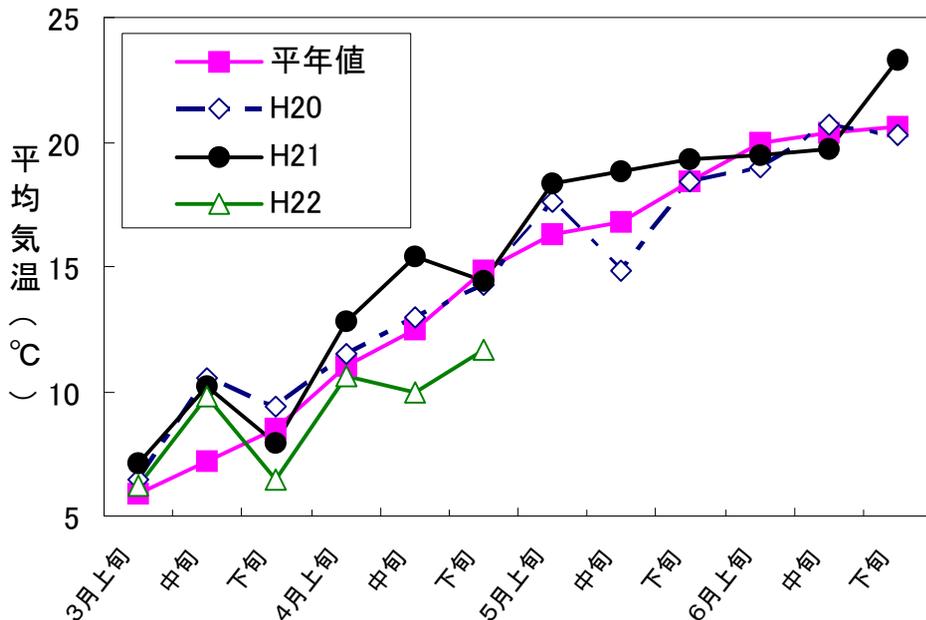
アブラムシの発生予察と早期防除について

普及センターで実施したアブラムシ（クワイクビレアブラムシ）の発生状況（飛来数）調査の結果、飛来数のピークは5月下旬でした。平成22年も5月第1半旬までは昨年までとほぼ同様の傾向です。今後の季節予報から、初期防除の実施には5月中旬の粒剤処理が有効と予想されます。



アブラムシの飛来数(誘殺数)の推移

1半旬:1~5日 2半旬:6~10日 3半旬:11~15日
4半旬:16~20日 5半旬:21~25日 6半旬:26~30(又は31)日



平成20年~22年の3月から6月の平均気温の推移

農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して下さい。

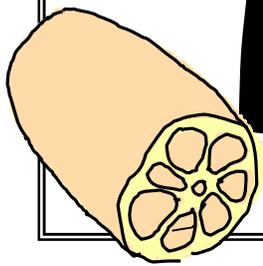
アブラムシは、卵で越冬し、春先に羽の生えた成虫となりほ場に飛来します。飛来したアブラムシはレンコンの浮葉や立葉に寄生して羽の無いタイプとなり増殖します。時期別のアブラムシの飛来数のデータは適期防除に活用できます。

アブラムシの飛来数(左上図)の増加は、平均気温(右下図)が高くなれば早くなります。平成21年は20年より平均気温が高く推移し、飛来数も早く増加しました。

平成22年の5月第1半旬までの飛来数は、平均気温は低いものの前年までとほぼ同様の推移です。

気象庁の季節予報によると5月の気温は平年並かやや高いと予想されています。今年も飛来のピークは5月下旬となる可能性があります。粒剤はレンコンに吸収されてから効果の発現に処理後数日を要するので、5月中旬には処理を行いましょう。

環境にやさしい農業のため水のかけ流しはやめましょう!!!



はすだね通信 第40号

みんなで進めよう
茨城農業改革

土浦地域農業改良普及センター

平成23年5月2日発行

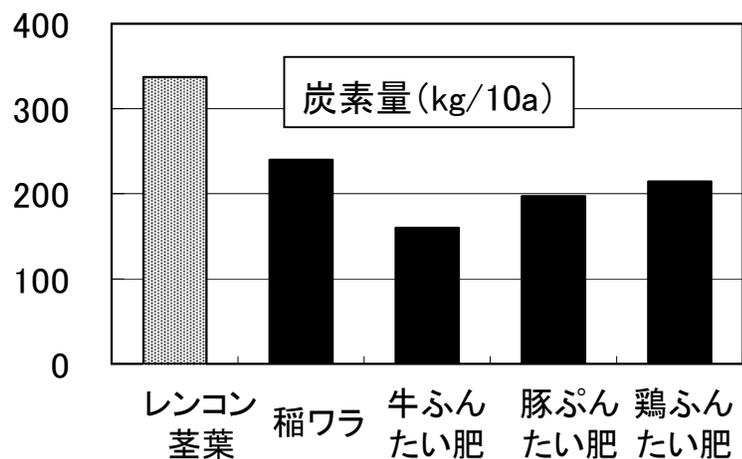
エコファーマーの認定技術について

エコファーマーの認定を受けるための土づくり技術である堆肥等有機質資材の施用にレンコンの茎葉のすき込みが認められました。

エコファーマーとは、「持続性の高い農業生産方式」の導入計画を作り、県知事の認定を受けた農家のことです。「持続性の高い農業生産方式」は①土づくり、②化学肥料低減、③化学農薬低減の3つの技術に一体的に取り組む生産方式です。土づくり技術としては、「たい肥等有機質資材の施用」が必要となりますが、レンコン栽培では、土質や作業性の問題でたい肥の施用が減少傾向にあり、エコファーマーの認定が受けにくい状況でしたが、本年度から新たに「たい肥等有機質資材施用」にレンコン茎葉のすき込みが認められたため、認定を取得しやすくなりました。

一方で、肥沃な圃場を末永く維持するには、たい肥の投入が不可欠です。可能な限り、たい肥の施用は行ってください。

レンコンの収穫部を除く茎葉(葉身、葉柄、地下茎)の量について普及センターで調査しました。その結果、炭素量(炭素は土づくりに重要な要素になります)や窒素量は他の土づくり資材と比べても遜色がないことが明らかとなり、茎葉のすき込みが土づくり技術として評価されました。

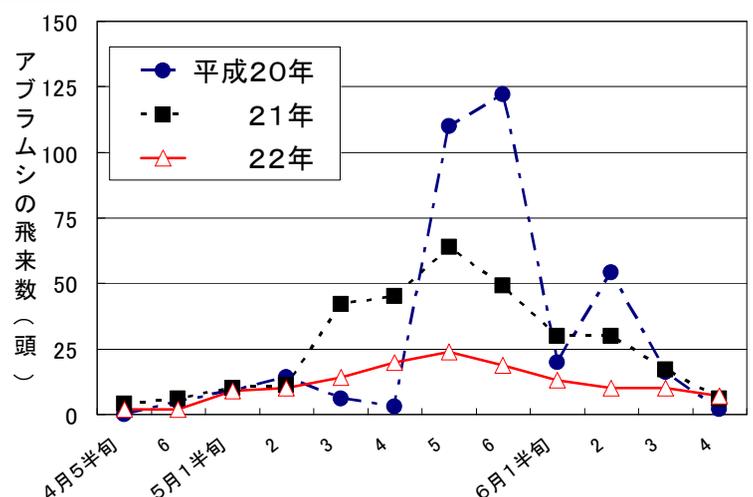


※たい肥は平均的濃度なもの 1000kg、稲わらは 600kg で想定

エコファーマーは環境にやさしい農業を実践していることをアピールするために有効です。これを機にエコファーマーの認証取得について是非考えてみて下さい。詳しくは普及センターまでお問い合わせ下さい。

今年もアブラムシの発生予察を実施します！

今年も、普及センターではアブラムシの発生状況(飛来数)調査を行います。昨年までの調査から、飛来は4月下旬から始まり、5月下旬にピークになることが分かりましたが、天候によって発生状況は毎年異なる可能性があります。飛来数の調査は半旬(5日)ごとに更新し、その結果は JA 土浦れんこんセンター、田村蓮根部会集荷場、霞ヶ浦南支店に掲示します。是非、防除の参考にして下さい。詳しくは普及センターまでお問い合わせ下さい。



環境にやさしい農業のため、水かけ流しはやめましょう!!!

土浦市真鍋5-17-26 土浦合同庁舎内 土浦地域農業改良普及センター Tel 029-822-8517 Fax 029-822-7370